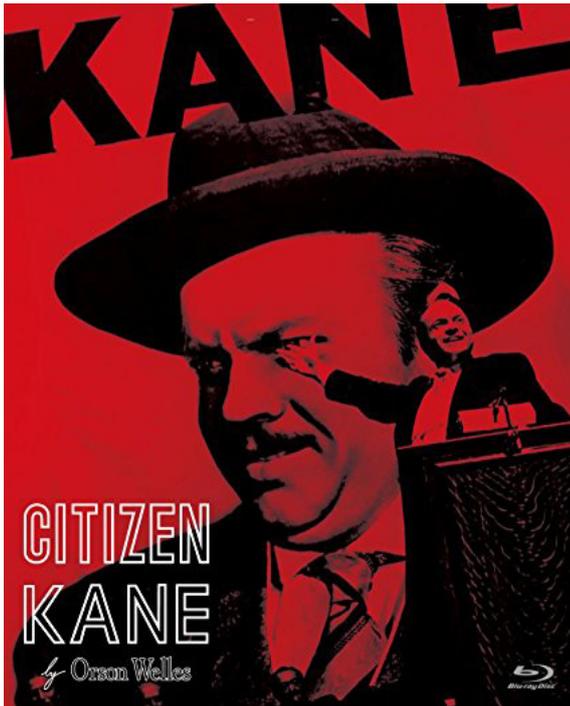


2018.9.20
vol.69

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

本日の上映作品『市民ケーン』



新聞王ケーンが、“バラのつぼみ”という謎の言葉を残して死んだ。新聞記者のトンプソンは、その言葉の意味を求めて、生前のケーンを知る人物にあたるが……。様々な人物の証言から、新聞界に君臨した男の実像が浮かび上がる、斬新な構成と演出で評判を呼んだ、ウェルズ弱冠 25 歳の処女作。人生を誤った敗北者の虚しい姿が、ラストで明かされる“バラのつぼみ”の正体によって、観る者の胸をえぐるが如く、赤裸々に浮かび上がる。

監督：オーソン・ウェルズ

音楽：バーナード・ハーマン

出演：オーソン・ウェルズ、ジョセフ・コットン、ドロシー・カミングア、エヴェレット・スローン

製作：1941 年 アメリカ モノクロ 119 分

『オールタイム・ベスト映画遺産 200』外国映画篇		キネマ旬報社	778.2
『アメリカ映画主義』もうひとつの U.S.A.	大場 正明／編	フィルムアート社	778.253
『映画で学ぶアメリカ文化』 U★S★A in the movies	八尋 春海／編著	スクリーンプレイ 出版	778.253
『映画のどこをどう読むか』映画理解学入門	ドナルド・リチャー／著	スタジオジブリ	778.2
『映画のなかのアメリカ』	藤原 帰一／著	朝日新聞社	778.253
『街場のアメリカ論』	内田 樹／著	NTT 出版	302.53
『いい映画にはいい雰囲気がある』 団塊世代が選んだ 120 本の映画感傷	上原 徹／著	アートダイジェスト	778.2
『新聞王ウィリアム・ランドルフ・ハーストの生涯』	デイヴィッド・ナソー／著	日経 BP 社	289.3
『映画の世紀末』	浅田 彰／著	新潮社	778.04
『マリファナも銃もバカも OK の国』	町山 智浩／著	文藝春秋	302.53
『映画技法のリテラシー 1』映像の法則	ルイス・ジアネッティ／著	フィルムアート社	778

コラム『市民ケーン』

“薔薇の蕾”の謎 K.M.

今回上映の1941年製作のアメリカ映画『市民ケーン』は、BFI（英国映画協会）が10年毎に全世界の映画批評家の意見を集約して選出している世界映画史上作品ベスト10で、1962年から2002年の40年間連続第1位でした。またAFI（米国映画協会）が1998年と2007年に選出した米国製作映画オールタイムベスト100で第1位を獲得しているので、この作品はまさに世紀の名画と言っても過言ではないでしょう。しかし、その評価は最初から定まっていた訳ではなく、この映画は主人公の新聞王ケーン同様、実に数奇な運命を歩んでいるのです。

'41年、経営難に陥っていた映画会社RKOは、起死回生の策として、ラジオ放送「火星襲来」で前代未聞のパニックを引き起こし話題を集めていたオーソン・ウェルズの起用を決定しました。映画製作は初めてという若干25歳のウェルズに製作・監督・脚本・主演の総てを託す異例の抜擢でした。主人公のモデルは、マスコミ界に君臨する実在の“新聞王”ウィリアム・ランドルフ・ハースト。この人物を中心にアメリカの資本主義の裏側をえぐった作品が完成します。

しかし、新聞王ハーストが映画の製作を知ることとなり、選挙での敗北やコーラスダンサーだったデイビスとの浮気など、ハーストをモデルにしたと明らかに分かるシーンが多数含まれていたために、彼の怒りを買って猛烈な妨害を受け、興行結果は散々で、ウェルズはハリウッドから追放された状態になりました。だが、『市民ケーン』は死にませんでした。10年後にハーストが死ぬや再公開され、大ヒットを記録し、鮮やかな復活を遂げたのです。

この作品のストーリーですが、新聞王ケーンの死の間際の“薔薇の蕾”という言葉の謎を追って、一人の新聞記者が、生前ケーンと親交があった人物たちへのインタビューを軸としながら、ケーンとはどんな人物だったのか、解き明かしていくいわばミステリー風の間人ドラマです。

この作品、決して楽しい作品ではありませんが、大変楽しめる作品です。「天才オーソン・ウェルズが25歳で撮った映画史上最高峰に輝く傑作」と称され、楽しみ方は多様です。一番素直な楽しみ方は、「主人公の新聞王ケーンが死の床で漏らす最後の言葉“薔薇の蕾”とは？」の謎を追求するサスペンスドラマとして楽しむことかもしれません。実は謎を追って奔走した新聞記者は、結局この謎を解けずに終わるのですが、ウェルズ監督は、観客にだけは最後に「そうだったのか！」の感動的なサプライズを用意してくれています。作品中にいくつか謎を解く鍵が用意されていますが、これをもとに解答を得ることは恐らく難しく、むしろ解答がわかった後、そうかあれが鍵だったのかと、感動を新たにするという楽しみ方になるのかもしれませんが。

この作品、様々な視点からの回想映像の一つ一つがいわばジグソーパズルのピースであり、それが作品の進行に

従って組み合わされ、次第に主人公の生涯と人物像が浮かび上がってきます。そして“薔薇の蕾”は最後の1ピースであり、作品の後半でジグソーパズルが重要なピースとして使われています。この作品の半ば辺りに、ケーンの唯一の友人リーランドのインタビューのシーンがあります。透明のガラス玉が出てきますが、スノーグローブ（日本ではスノードームとも）という玩具。現在では世界中でコレクターズ・アイテムの一つになっているようです。

なお、シネマ・ド・リブら第1回上映作品の『第三の男（'49年）』のキャロル・リード監督は、『市民ケーン（'41年）』から相当強烈な刺激を受けていたと見え、その主役に『市民ケーン』のオーソン・ウェルズとジョセフ・コットンを起用しています。もしこの2人がいなければ、恐らく名作『第三の男』は存在しえなかったでしょう。

「町山智宏の映画塾【WOWOW】#186」から e.m

<https://www.youtube.com/watch?v=J6lmwG4cdnQ>

ウィリアム・ランドルフ・ハーストは、当時アメリカの世論を操作できる唯一の“新聞”を操れる“王”でした。存命中のメディア王を題材に、若干25歳の若造ウェルズが、なぜこの映画を好き勝手に撮れたかという、制作会社はウェルズを野放し・ノーチェックで、彼が何を撮っていたのか知らなかったというのです。でなければ、この作品が世に出ることはなかったかもしれません。

そして、ウェルズは映画の撮影に関してはど素人で、まささらな状態で撮影に臨んだため、「できることとできないこと」が分からず、業界の常識では出てこない発想にスタッフが応える形でいろいろな技術が開発されました。現在ではSFXやCGが当たり前なので、今の映画を見慣れていると何が凄いのかわかりにくいのですが、以下の撮影技術はこの作品で開発されたものです。

- ・超クローズアップ：ケーンの顔（口元）
- ・パン・フォーカス：遠景までピントが合っている
- ・超ロングテイク：子どものケーンと両親のトラックバック
- ・モンターージュ：食事シーンで歳月を描写
- ・クレーンショット：ネオンサインをスルーして……
- ・超ローアングル：天井が映る
- ・メディアミックス：映画以外の映像が入る
- ・特殊メイク：25歳のウェルズの老け役
- ・時間軸：回想という構成

1999年には『ザ・ディレクター [市民ケーン] の真実』という、『市民ケーン』の公開をめぐる、監督ウェルズとメディア王ハーストの熾烈な攻防を描く伝記ドラマが制作されています。同じ題材の映画は『グレート・ギャツビー』『ソーシャルネットワーク』。黒澤明の『羅生門』の構成は『市民ケーン』と同じです。

8/23 『この世界の片隅に』の感想

・ 日常生活の中に「戦争」があるということが淡々と語られていましたが、とても心に沁みる映画でした。私たちは幸せな日常に感謝して生きていけないといけないですね。

・ 戦争のむごたらしさを描きながら、ごく日常の何気ない生活がもとになっているので共感しながら見れた。戦争は二度と在ってはならない。

・ 凄い映画でした。涙が止まりませんでした。戦後73年。随分と戦争が風化しています。人間は過ちを繰り返すのですね。あれだけの地獄の苦しみを味わったのです。「平和」を築かなければ亡くなった方々に申し訳ないです。平和の尊さを改めて教えられました。

・ 感動しました。何年たっても忘れてはいけないと思います。改めて平和のありがたさをかみしめる事ができました。

・ 真の人間の強さを感じました。それと平和に感謝ですね。

・ 久々に感動し平和の世の中に感謝します。

・ 戦争はこわい。今の幸福を守りたいです。大変よい映画でした。皆様の眼に涙を見て、悲しむ人をなくしたいです。本当に平和の喜びを感謝することを再度思いました。

・ 戦争の生活がとてもうれしい時もあれば悲しい時もあるのが、どんどん悲しい事ばかりになっていくのがつらかったです。

・ 戦争の悲惨さがよくわかった。誰も無事ではなかった。

・ とてもよかったです。戦争はぜったいいやだと思います。

・ 戦時中でありながら、ゆったりほっこりしてとても和んだ。皆よい人でした。

・ 見れて良かった。悲しくてあたたかくて。

・ 出てくる人がしんせつな人がいたから、ぼくもしんせつな人になりたいです。

・ 普通に暮らせる幸せをしみじみ感じました。すずの健気に生きていく姿が素晴らしかったです。ありがとうございました。

・ 心に響く、素晴らしい映画でした。家族と平凡な毎日を過ごせるありがたさをつくづく感じました。上映ありがとうございました。

・ とても感動しました。アニメもステキだし日常の素晴らしさもしっかり描かれていました。

・ 生きることの意味が判った想いです。とても感動しました。自然と人間はそのまがが一番良いと思いました。

・ S20年2月生まれです。終始感動でした。

・ 日常の大切さを思います。どんな一日も一日。来てよかったです。

・ 何げない日常に感謝したいと思います。わたしにも何かできるでしょうか。

・ 思いがけずの良いアニメに会えました。今がよい時代と思いました。感謝の心で、これからも日々過ごしてゆきます。

・ 改めて、今 現代が有難い時代だと思った。本当に大変な時代を生き抜いた先人の方々に感謝するとともにこの先も精一杯生きねばと思いました。ありがとうございました。

・ 父母の時代は日本のどこもかしこも大変だったと聞いていたことを再確認できました。戦争から平和になった終戦後に誕生した私たち。戦前の大変な時にも明るい笑顔でみんな生き抜いてきたのだな、そして今の私たちがあるのだと、強い心で明るく生きてゆくののだなと思います。

・ 映画館でも見たのですがとても感動しました。のんさんの声も可愛くて、戦争のこわさも感じました。孫にも見せてあげたいです。いつもありがとうございます。

・ とても良かったです。たくさんの人にすでに見られているのだろうと思いますが、これからも若い人たちにも見てほしいと思いました。広島の人以外にもたくさん見てほしいです。

・ ちょうど夏休みで、若い方々も見られたのがよかったです。と思います。

・ とても良かったです。いい作品をありがとうございます。各小学校に回って、全小学生に観て欲しいです。

・ 以前も見ましたが、やっぱりよかったです。小学生達には是非見てほしい映画です。よい機会をありがとうございました。

・ この映画を企画して下さいありがとうございます。もう一度観たいと思っていました。

・ アニメだったので子供と一緒に観られてとてもよかったです！！またお願いします。

・ 子どもを預かってもらい、何年かぶりに映画を観ました。観たかったこの映画。明日から家族に優しくできそうです。

・ うわさ通りすばらしい作品でした。こんなに早くりぶらで見られるとは感激です！ありがとうございました。

・ 最新の話題の作品を観られてよかったです。ぜひ、最新の作品で、またお願いします。

・ いつも思い出す時期に見られ感動しました。

・ 私が小学2年生の時でした。とても思い出の映画で感動しました。

・ 心に残るいい映画でした。ありがとうございました。

・ こわい所があるけどおもしろかった。始まり前に隣の女性がそのとなりの男性が席にいることを拒んでいた。映画はとてもよかったです。

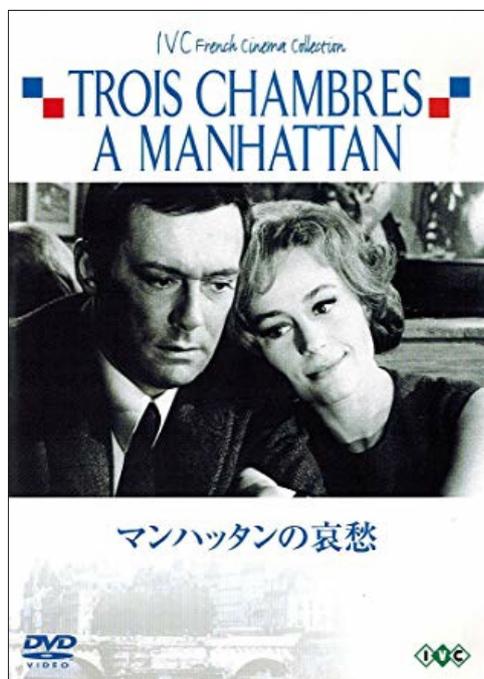
・ ほか、「よかった」「ありがとう」の声、多数。



第70回上映会のご案内

マンハッタンの哀愁

TROIS CHAMBRES A MANHATTAN 字幕上映



10月18日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

『天井桟敷の人々』のマルセル・カルネが、マンハッタンの夜を舞台にしつとりと魅せる、孤独な男女のふれ合いを描く恋愛劇。妻に裏切られ、傷心の思いでパリからマンハッタンへやって来た俳優・フランソワは、とある裏町の酒場で外交官の夫と別れたばかりのケイに出会い、二人はお互いの傷心を癒すかのように惹かれていった……。

監督・脚本：マルセル・カルネ

撮影：オイゲン・シュフタン

出演：アニー・ジラルド、モーリス・ロネ

ガブリエル・フェルゼッティ

ジュヌヴィエーヴ・パージュ

ロバート・デ・ニーロ

製作：1965年 フランス モノクロ 104分

注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

サロン・ド・シネマについて

10月から、ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリングループが設置されています。補聴器を利用されている方は、Tモードに切り替えてください。



今後の上映のご案内 (上映作品は変更になる場合があります。)

- | | | | | | |
|------|-----------|---------------------|-----------|-----------|-----------|
| 第71回 | 12月20日(木) | 『女だけの都』 | ① 10:30 ~ | ② 14:00 ~ | ③ 18:30 ~ |
| 第72回 | 1月17日(木) | 『私の頭の中の消しゴム』 | ① 10:30 ~ | ② 14:00 ~ | ③ 18:30 ~ |
| 第73回 | 2月21日(木) | 『チャップリンミュージュアル社時代1』 | ① 10:30 ~ | ② 14:00 ~ | ③ 18:15 ~ |